

浜松市文化財情報

発行：浜松市文化財課

浜松市中区元城町103-2（本庁6階）

TEL：053-457-2466

FAX：053-457-2563

Mail：bunkazai@city.hamamatsu.shizuoka.jp



金銀装門頭大刀（浜松市指定有形文化財）

全国山城サミット浜松大会レポート！

11月19日（土）、20日（日）、第18回全国山城サミット連絡協議会浜松大会（全国山城サミット浜松大会）を開催いたしました。その様子をダイジェストでご紹介します。



◆大荒れの天気にもかかわらず長蛇の列！

19日（土）：アクトシティ浜松・中ホール。朝から大雨。しかも天気予報は、午後にかけて風雨とも激しくなるというもの。いくら屋内（ホール）で行うイベントとはいえ、こんな悪天候では出かけるのをためらう、あきらめる方も多いのでは？…と少し弱気になりながら準備を進めました。

しかし、午前9時になると入場待ちの列ができてはじめ、開場時間（午前9時30分）が近づくにつれ列はどんどん長くなり、開場時には大ホールの前まで入場待ちの列が！（「おそらく、開場・入場待ちの列ができたのは、全国山城サミット史上初ではないか（驚）」加盟自治体参加者・談）開場とともにロビーは…。

ちなみに、来場者をお迎えした家康くんは無事でした（さすが！）。

その間も天気はどんどん悪くなり、大荒れになっていきました…。



まさかの入場待ちの列・列・列…！



ごったがえすロビー

◆基調講演「徳川・武田の抗争と遠州の山城」

11月13日のイベントに出演いただいた落語家の春風亭昇太師匠の「熱い」ビデオ応援メッセージが場内に流れた後、いよいよ開演。まずオープニングアトラクションとして、**浜松市立都田中学校放歌踊り倶楽部のみなさん**に、**静岡県無形民俗文化財滝沢の放歌踊**を披露していただきました。



オープニングアトラクション（滝沢の放歌踊）

つづいて、静岡大学名誉教授・文学博士の**小和田哲男さん**による基調講演「徳川・武田の抗争と遠州の山城」が行われました。

基調講演としてまさにふさわしい、ひとつひとつの話題が大変興味深く、90分という時間が短く感じられた、充実した講演でした。

小和田さんの講演中に1階席が満席になり、2階席を開放しました（この時点で来場者数は800人を超えていました）。



基調講演

◆協議会（加盟自治体・山城紹介、次期開催地の決定、全国山城サミット宣言）

昼休みをはさんで、午後の部の最初は協議会を開催。市長のあいさつにつづき、新たに協議会に加盟した自治体と山城を紹介いたしました。静岡県から4自治体・6山城、愛知県から5自治体・8山城、そして、浜松市からも新たに鳥羽山城が加盟し、82自治体・122城が加盟する協議会となりました。つづいて、浜松大会の参加自治体による山城紹介が行われました。今大会は21自治体（浜松市含む）・1団体が参加し、その内、9自治体に壇上発表をしていただきました。発表者のみなさんの熱の入った発表に目と耳は釘づけになり、どの山城にも出かけたくくなりました。



山城紹介

そして、いよいよ次期開催地を決定する瞬間です。事務局から、次期開催地として「**富山県魚津市（松倉城跡）**」を提案させていただいたところ、満場一致で承認をいただきました。

第19回全国山城サミット連絡協議会魚津大会は、平成24年10月13日・14日に開催予定です。



次期開催地決定の瞬間

最後に、浜松市長が「第18回全国山城サミット宣言」を行い、協議会は終了しました。

第18回全国山城サミット宣言

本日、全国各地から山城を有する自治体や関係団体が、徳川・武田による山城争奪の舞台・静岡県浜松市に集い、「第18回全国山城サミット連絡協議会浜松大会」を開催しました。

全国山城サミット連絡協議会は、山城を持つ全国の市町村及び関係団体が、情報交換等を通じて親睦と交流を深め、山城を活かした潤いのある豊かなまちづくりを進めることを目的としています。

山城は、そこに住む人々を守り、地域の歴史と文化を育んできました。そして、その役目を終えた後も、豊かな自然の中で山城は深く地域に根づき、私たちの先人たちにより「地域の歴史・文化の証」として守られ、親しまれてきました。

山城は、今も私たちの地域に生き続けています。

私たちは、地域のかげがえのない文化遺産である山城の保存・活用に、地域住民と協働で取り組み、地域の歴史資源である山城を後世に伝え続けることを誓い、「全国山城サミット浜松宣言」とします。



◆シンポジウム「徳川・武田争奪の城郭群を活かしたまちづくり」

休憩をはさんで、本日のメイン、シンポジウム「徳川・武田争奪の城郭群を活かしたまちづくり」です。まず、4つの事例報告を行いました。浜松市文化財課による「二俣城・鳥羽山城における近年の調査成果について」、滋賀県立大学人間文化学部准教授・中井均さんによる「徳川・武田・今川氏が競った城郭群を活かしたまちづくり」、織豊期城郭研究会・加藤理文さんによる「高根城の復元整備とまちおこし」、そして、前浜松市文化財課長・辰巳均さんによる「国民文化祭・城跡フェスティバルの経験」です。

どの報告も、調査・研究の成果や経験に基づくもので、また、他都市・他地域の事例も交えた内容で、来場者のみなさんは熱心にメモを取っていました。



「二俣城・鳥羽山城における近年の調査成果について」浜松市文化財課



「徳川・武田・今川氏が競った城郭群を活かしたまちづくり」中井均



「高根城の復元整備とまちおこし」加藤理文



「国民文化祭・城跡フェスティバルの経験」辰巳均

つづいて、パネルディスカッション。事例報告をしていただいた中井さんをコーディネータに、基調講演をいただいた小和田さん、事例報告をしていただいた加藤さんと辰巳さんをパネリストに浜松大会のテーマである「徳川・武田争奪の城郭群を活かしたまちづくり」について討論いたしました。パネリストのみなさんからは、浜松の山城のすばらしさ、その他現状の課題や意見をいただきましたが、「地域資源である山城を、どうまちづくりに活かしていくか」、浜松市だけでなく、他都市から参加していただいたみなさんにとっても大変参考になる充実した内容でした。



パネルディスカッション

◆山城現地見学会(二俣城・鳥羽山城)

20日(日)：二俣城・鳥羽山城。快晴。朝起きた時点で、すべてが報われた気持ちになりました。昨日は一部交通機関に影響が出るほどの大雨。でも今日は快晴なのです！

何ひとつ変更することなく、予定どおり参加者を乗せたバスがJR浜松駅前を出発。1時間弱の移動後、鳥羽山城の駐車場に到着。「天竜区応援隊」の忍者のみなさんが参加者をお出迎えしてくれました。

主催者あいさつと天竜観光協会の会長さんの歓迎のあいさつ後2班に分かれ、それぞれ二俣城と鳥羽城を見学いたしました。実際に発掘調査を担当した文化財課職員の説明をみなさん真剣に聞き入っていました。



「天竜区応援隊」の忍者のみなさんがお出迎え



山城見学会(二俣城)



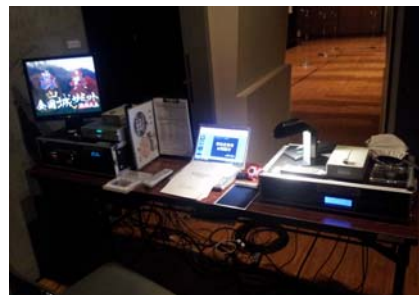
山城見学会(鳥羽山城)

◆全国山城サミット浜松大会が残したもの

こうして、『ジェットコースターに乗った気分』の全国山城サミット浜松大会は終わりました。でも、「徳川・武田争奪の城郭群を活かしたまちづくり」は、これから始まります。

山城は、今も私たちの地域に生き続けています。

そして、未来も私たちの地域に生き続けているように。



舞台袖

編集
後記

最終的に、19日にご来場いただいた方は、自治体参加者も含め1,000人でした。おそらく全国山城サミット史上最多来場者数(加盟自治体関係者・談)を記録したと思いますが、「数」の問題よりも、悪天候にも関わらず、本当に大勢の方がご来場いただいたことに感謝・感激です。山城への関心の高さを改めて実感した一日でした。山城って本当にスゴイ！